

4 . 各報告書の詳細

すべての分析結果報告書の詳細について記載します。

分析結果報告書確認表示用の画面はA 4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

詳細では、個々の入力方法の詳細について記しています。

4 - 1 分析結果報告書 [1]

廃棄物試料に関する分析結果報告書[1]の入力方法の詳細を記します。

表 4-1 廃棄物試料 (カドミウム) (分析結果報告書 [1])

分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位 : mg / kg。
・ 分析結果 (検出下限値以上)	検出下限値以上では、分析結果を有効数字 3 桁 (有効数字 4 桁目を四捨五入) で記入。「検出下限値未満での検出下限の値」欄は記入しない。
・ 検出下限未満での検出下限の値	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。「検出下限値以上」欄は記入しない。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。
分析条件	3 回測定のうち、1 回目の分析条件を記入する。 (1 回目の分析条件を記入する)
< 試験溶液の調製 > 試料量 酸の量 硝酸 塩酸 過塩素酸 試験溶液の量 (定容量)	数値 (半角) 入力。単位 : g。 数値 (半角) 入力。単位 : ml。 数値 (半角) 入力。単位 : ml。 数値 (半角) 入力。単位 : ml。使用しない場合は「0」 数値 (半角) 入力。単位 : ml。

<p>< 溶媒抽出 ></p> <p>溶媒抽出</p> <p>試験溶液の分取量</p> <p>溶媒の種類</p> <p>抽出回数</p> <p>溶媒の使用量</p> <p>最終の定容量</p> <p>最終溶液の液性</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：回。</p> <p>数値（半角）入力。1回当たりの使用量。単位：m l。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p>
<p>< 原子吸光法 ></p> <p>フルム法 試験溶液の希釈 希釈：希釈倍率</p> <p>電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法</p> <p>ビュッフェの添加</p> <p>原子吸光装置 バックラウンド補正</p> <p>測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μ l。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p>< ICP 発光分光分析法 ></p> <p>試験溶液の希釈 希釈倍率</p> <p>装置 型式</p> <p>バックラウンド補正</p> <p>超音波ワライナーの使用</p> <p>測定時間</p> <p>測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値（半角）入力。単位：秒。</p> <p>数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p>< ICP 質量分析法 ></p> <p>使用した水</p> <p>積分時間</p> <p>質量数</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：秒。</p> <p>数値（半角）入力。定量に用いた質量数1つを記入。</p>

< 検量線の作成等 > 定量方法 方法 内標準物質の種類	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg / l)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>15</u> <u>0文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>15</u> <u>0文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。 例（フレーム原子吸光法：溶媒抽出せず） $\text{分析結果 (mg / kg)} = (\text{検量線から求めた測定溶液濃度 mg / l} - \text{空試験の濃度 mg / l}) \times \text{希釈倍率} \times \text{試験溶液の量 ml} \div \text{試料量 (g)}$

4 - 2 分析結果報告書 [2]

廃棄物試料に関する分析結果報告書[2]の入力方法の詳細を記します。

表 4-2 廃棄物試料（鉛）(分析結果報告書 [2])

表 4-1 廃棄物試料（カドミウム）(分析結果報告書 [1])と同じ

4 - 3 分析結果報告書 [3]

廃棄物試料に関する分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表 4-3 廃棄物試料（砒素）(分析結果報告書 [3])

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg / kg。
------	---------------------------------------

<p>・分析結果（検出下限値以上）</p> <p>・検出下限未満での検出下限の値</p> <p>（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。</p>	<p>検出下限値以上では、<u>分析結果を有効数字3桁</u>（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。「検出下限値未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。「検出下限値以上」欄は記入しない。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
<p>分析開始月日</p> <p>分析終了月日</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
<p>分析方法</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、<u>全角文字</u>で具体的な分析方法を記入する。</p>
<p>分析条件</p>	<p><u>3回測定のうち、1回目の分析条件を記入する。</u></p> <p>（1回目の分析条件を記入する）</p>
<p><試験溶液の調製></p> <p>試料量</p> <p>酸の量 硝酸</p> <p>硫酸</p> <p>過塩素酸</p> <p>試験溶液の量（定容量）</p>	<p>数値（半角）入力。単位：g。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。使用しない場合は「0」</p> <p>数値（半角）入力。単位：m l。</p>
<p><吸光度法></p> <p>試験溶液の分取量</p> <p>測定波長</p>	<p>数値（半角）入力。単位：m l。</p> <p>数値（半角）入力。単位：n m。</p>
<p><原子吸光法、ICP発光分析法></p> <p>試験溶液の分取量</p>	<p>数値（半角）入力。単位：m l。</p>
<p>予備還元剤の試薬 よう化カリウム</p> <p>（酸を除く） 塩化すず（ ）</p> <p>鉄（ ）</p> <p>臭化カリウム</p> <p>その他</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>全角文字で具体的に記入。</p>
<p>予備還元剤の溶液 塩酸濃度</p> <p>硫酸濃度</p>	<p>数値（半角）入力。単位：m o l / l。</p> <p>数値（半角）入力。単位：m o l / l。</p>
<p>還元剤</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、<u>全角文字</u>で具体的に記入。</p>

導入方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
原子吸光装置バックラウンド補正	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
ICP発光分光装置型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
バックラウンド補正	コンボボックスより選択。
超音波洗浄剤の使用	コンボボックスより選択。
測定時間	数値（半角）入力。単位：秒。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。
< 検量線の作成等 >	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。
内標準物質の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。吸光度法では発生瓶での量(μg)。原子吸光法及びICP発光分析法では測定する溶液中の濃度(mg/l)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。
計算式	全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。廃棄物試料（カドミウム）と同様。

4 - 4 分析結果報告書 [4]

ガス試料に関する分析結果報告書[4]の入力方法の詳細を記します。

表 4-4 ガス試料 (臭気指数) (分析結果報告書 [4])

<p>分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析結果 (臭気指数) 	<p>数値 (半角) 入力。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「該当する値を入力して下さい」というエラーメッセージが表示される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 標準偏差 	<p>3 回以上の測定を行った場合には、次式で計算した結果を有効数字 3 桁で記入。</p> $\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n - 1}}$ <p>ただし、x_i は分析結果 \bar{x} は平均値 n は測定回数</p>
<ul style="list-style-type: none"> 測定回数 	<p>試料の希釈からは判定試験の一連の操作を行った回数を記入。</p>
<p>分析開始月日</p>	<p>コンボボックスより選択。</p>
<p>分析終了月日</p>	<p>分析開始日は試料の採取を開始した日。分析終了日は判定試験を完了した日。</p>
<p>分析方法</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。</p>
<p>分析条件</p>	<p>(2 回以上測定した場合には、1 回目の分析条件を記入する)</p>
<p>< 判定試験 ></p> <p>オペレーター 年齢</p> <p>性別</p> <p>喫煙</p> <p>臭気判定士の資格</p>	<p>数値 (半角) 入力。単位 : 才。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p>

判定試験場所	場所	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	換気	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	気温	数値（半角）入力。単位： 。
	湿度	数値（半角）入力。単位： %。
におい袋	材質	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	容量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、数値で具体的に記入。
鼻あて		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
試料の注入に用いた器具		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
試料の希釈方法		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
判定試験に要した時間		数値（半角）入力。単位：分。
< パネル >		
年齢		数値（半角）入力。単位：才。
性別		コンボボックスより選択。
喫煙		コンボボックスより選択。
パネルの経験		数値（半角）入力。単位：回。これまでのパネルの実施回数の概数を記入。
< 判定試験の結果 >		
注入量		数値（半角）入力。単位： m l。におい袋への注入量を記入。
希釈倍率		数値（半角）入力。
希釈倍率の対数値		数値（半角）入力。
付臭番号		数値（半角）入力。付臭におい袋の番号(1、2又は3)を記入。
回答番号		数値（半角）入力。パネルが回答したにおい袋の番号(1、2又は3)を記入。
判定		コンボボックスより選択。
パネル個人の閾値		数値（半角）入力。パネルごとに算出。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点		全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。廃棄物試料（カドミウム）と同様。

計算式	全角文字入力。「。」、「、」、「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。廃棄物試料（カドミウム）と同様。
-----	---

4 - 5 分析結果報告書 [5]

底質試料に関する分析結果報告書[5]の入力方法の詳細を記します。

表 4-5 底質試料（フタル酸ジエチルヘキシル）(分析結果報告書 [5])

分析結果	数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g} / \text{g}$ 。
・分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁（有効数字4桁目を四捨五入）で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。
・検出下限未満での検出下限の値	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。「検出下限値以上」欄は記入しない。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
・標準偏差	3回以上の測定を行った場合には、標準偏差を算出し有効数字3桁で記入。標準偏差の算出方法はガス試料（臭気指数）と同じ。
・測定回数	分析用試料の量り取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、 <u>全角文字</u> で具体的な分析方法を記入する。
分析条件	（ <u>2回以上測定した場合には、1回目の分析条件を記入する</u> ）
<測定用試料液の調製> 試料量	数値（半角）入力。単位：g。

溶媒抽出 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
溶媒の使用量	30ml。数値（半角）入力。1回当たりの使用量。
抽出時間	振とう5分超音波10分。数値（半角）入力。1回当たりの時間。
抽出回数	2回。数値（半角）入力。
抽出液のうちクリーンアップ [®] 使用割合	数値（半角）入力。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
濃縮の方法 GPC カラム	実施した場合には、チェックボックスにチェック。
窒素吹き付け	実施した場合には、チェックボックスにチェック。
ローター-エバポレーター	実施した場合には、チェックボックスにチェック。
その他の方法	その他の方法を実施した場合には、全角文字で具体的に記入。
定容量（測定用試料液量）	数値（半角）入力。単位：ml。
< GC / MS > GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
内径	数値（半角）入力。単位：mm。
長さ	数値（半角）入力。単位：m。
膜厚	数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（ ） 温度保持（分） 昇温速度（ /分） 昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリアーガス条件 種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
流量	数値（半角）入力。単位：ml/分。
注入 量	数値（半角）入力。GCへの注入量(μl)を記入。
注入口温度	数値（半角）入力。単位： 。
注入方式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

<p>< 定量方法等 ></p> <p>方法</p> <p>内標準物質の種類</p> <p>内標準物質の添加量</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。GC/MS 測定用試料液中の量（ng）で記入。</p>
<p>標準原液 区分</p> <p>購入：メーカー名</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p>
<p>< 質量数等 ></p> <p>質量数</p> <p>検出下限</p>	<p>数値（半角）入力。定量に用いた質量数 1 つを記入。</p> <p>数値（半角）入力。試料中の濃度（$\mu\text{g/g}$）として記入。</p>
<p>< 検量線の作成等 ></p> <p>検量線 作成点数</p> <p>作成範囲 最小量</p> <p>最大量</p> <p>最高濃度の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。GCへの注入量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>試料 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>空試験 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>サロゲートの使用 有無</p> <p>サロゲート：種類</p> <p>添加量</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。試料中への添加量（ng）として記入。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で簡潔に記入する。廃棄物試料（カドミウム）と同様。</p>
<p>計算式</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で記入する。廃棄物試料（カドミウム）と同様。</p>

4 - 6 分析結果報告書 [6]

土壌試料に関する分析結果報告書[6]の入力方法の詳細を記します。

表 4-6 土壌試料 (ダイオキシン類及びコプラナー P C B : 土壌調査マニュアルに規定するソックスレー抽出) (分析結果報告書 [6])

測定回数	分析用試料の量り取りから GC/MS 等の測定までの一連の操作を行った回数 (併行測定の数) を記入。
分析結果	数値 (半角) 入力。単位: $\mu\text{g} / \text{g}$ 。
・分析結果 (定量下限値以上)	定量下限値以上では、 <u>有効数字 2 桁</u> (有効数字 3 桁目を四捨五入) で記入。2 回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限 ~ 定量下限」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。
・分析結果 (検出下限 ~ 定量下限)	検出下限以上定量下限値未満では、 <u>有効数字 2 桁</u> (有効数字 3 桁目を四捨五入) で記入。2 回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「定量下限値以上」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。
・検出下限未満での検出下限の値	検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字 1 桁</u> で記入。「定量下限値以上」及び「検出下限 ~ 定量下限」欄は記入しない。
・標準偏差	3 回以上の測定を行った場合には、 <u>有効数字 2 桁</u> で記入。標準偏差の算出方法は、ガス試料 (臭気指数) と同じ。
<p>(注) 分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値)」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、測定方法 (試料における) の検出下限、定量下限値を示します。</p>	
分析条件	(<u>2 回以上測定した場合には、1 回目の分析条件を記入する</u>)
< 抽出 >	
試料のはかり取り量	数値 (半角) 入力。単位: g 。
抽出方法	ソックスレー抽出
溶媒	トルエン
抽出時間	数値 (半角) 入力。単位: 時間。
溶媒量	数値 (半角) 入力。単位: ml 。
ろ紙の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
抽出液量	数値 (半角) 入力。粗抽出液の量 (ml) を記入。

抽出液の分取 有無 分取量	コンボボックスより選択。 「分取する」を選んだ場合には、分取量（m l）を記入。数値（半角）入力。
濃縮器の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
濃縮後の定容量	数値（半角）入力。単位：m l。
クリーンアップ剤 添加 添加箇所	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
<クリーンアップ> 硫酸処理 シカゲルマト 多層シカゲルマト	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
GC/MS 分析用試料液の調製方法 硫黄分除去の処理 その他の処理 転用溶媒	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
GC/MS 分析用試料液のタイプ タイプ- PCB 用	数値（半角）入力。単位：μ l。
<GC / MS > 対応物質のタイプ タイプ- PCB	（対応物質ごとにGC / MS 1 ~ 5に記入する） チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μ m。
昇温条件	温度（ ） 温度保持（分） 昇温速度（ /分） 昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：GCへの注入量(μ l)を記入。 数値（半角）入力。単位：。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

キャリアーガス条件 流量	数値（半角）入力。単位：ml/分。
MS型式 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定時の分解能	コンボボックスより選択。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
電圧	コンボボックスより選択。
電流	コンボボックスより選択。
イオン源温度	数値（半角）入力。単位： 。
< 検量線の作成 >	
ダイクソン類 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。GCに注入する標準液の濃度(n g / l)を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。
繰り返し数	数値（半角）入力。整数。
コナラ-PCB 作成点数	ダイクソン類と同様に記入。
作成範囲 最小濃度	
最大濃度	
繰り返し数	
標準物質(液)ダイクソン類製造メカ	製造メカは、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
開封後の月数	
コナラ-PCB 製造メカ	開封後の月数は、数値（半角）入力。単位：月。
開封後の月数	
装置安定性 感度変動	数値（半角）入力。単位：%。
保持時間変動	数値（半角）入力。単位：%。
< 内標準物質の添加量と回収率 >	使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、全角文字で具体的に記入。
クリアップスパイク 添加量	数値（半角）入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。
クリアップスパイク 回収率	数値（半角）入力。添加した内標準物質の回収率(%)を記入。
シリングスパイク 添加量	数値（半角）入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。

<p>< 空試験値及び相対感度係数 ></p> <p>空試験値(操作ﾌﾞﾗﾝｸ)</p> <p>相対感度係数(RRFcs)</p> <p>相対感度係数(RRFss)</p>	<p>数値(半角)入力。試料中の濃度(p g / g)に換算した値で記入(分析結果と同じ単位とする)。<u>空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)。</u></p> <p>数値(半角)入力。2つのモーターイオ(質量数)における平均値を記入。</p>
<p>< 検出下限値 ></p> <p>装置の検出下限</p> <p>測定方法(試料における)</p> <p>検出下限</p> <p>試料測定時の検出下限</p>	<p>数値(半角)入力。<u>有効数字1桁</u>で記入。</p> <p>GC/MSで検出できる最小量(p g)を記入。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度(p g / g)を記入(分析結果と同じ単位とする)。</p> <p>検出できる試料中の最小濃度(p g / g)を記入(分析結果と同じ単位とする)。</p>
<p>< 測定質量数 ></p>	<p>各塩素化物ごとに2つまでを選択(定量に用いた質量数を選択)。質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する。「その他」を選んだ場合には、数値(半角)で具体的に記入。</p>

4 - 7 分析結果報告書 [7]

土壌試料に関する分析結果報告書[7]の入力方法の詳細を記します。

表 4-7 土壌試料(ダイオキシン類及びコプラナーPCB:土壌調査マニュアルに規定するソックスレー以外の抽出)(分析結果報告書[7])

<p>測定回数</p>	<p>分析用試料の量り取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の数)を記入。</p>
<p>分析結果</p>	<p>数値(半角)入力。単位:p g / g。</p>
<p>・分析結果(定量下限値以上)</p>	<p>定量下限値以上では、<u>有効数字2桁</u>(有効数字3桁目を四捨五入)で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限~定量下限」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p>
<p>・分析結果(検出下限~定量下限)</p>	<p>検出下限以上定量下限値未満では、<u>有効数字2桁</u>(有効数字3桁目を四捨五入)で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「定量下限値以上」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p>
<p>・検出下限未満での検出下限の値</p>	<p>検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。「定量下限値以上」及び「検出下限~定量下限」欄は記入しない。</p>

・標準偏差	3回以上の測定を行った場合には、有効数字2桁で記入。標準偏差の算出方法は、ガス試料(臭気指数)と同じ。
<p>(注) 分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(定量下限値以上、検出下限以上定量下限未満の値または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p> <p>検出下限、定量下限とは、測定方法(試料における)の検出下限、定量下限値を示します。</p>	
分析条件	(2回以上測定した場合には、1回目の分析条件を記入する)
<抽出> 試料のはかり取り量	数値(半角)入力。単位:g。
抽出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
高速溶媒抽出 (ASE) メーカー 型式 抽出時間 溶媒量 圧力 温度 static Flush 回数	<p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値(半角)入力。単位:時間。</p> <p>数値(半角)入力。単位:ml。</p> <p>数値(半角)入力。単位:psi。</p> <p>数値(半角)入力。単位:。</p> <p>数値(半角)入力。単位:分。</p> <p>数値(半角)入力。単位:%。</p> <p>数値(半角)入力。単位:回。</p>
自動ソックスレー メーカー 型式 抽出時間 溶媒量	<p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値(半角)入力。単位:時間。</p> <p>数値(半角)入力。単位:ml。</p>
その他の抽出 メーカー 型式 抽出時間 溶媒量	<p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値(半角)入力。単位:時間。</p> <p>数値(半角)入力。単位:ml。コンボボックスより選択。</p>

4 - 8 分析結果報告書 [8]

水質試料に関する分析結果報告書[8]の入力方法の詳細を記します。

表 4-8 水質試料 (ベンゾ (a)ピレン、ベンゾフェノ、4-ニトロヒン) (分析結果報告書 [8])

分析結果	数値 (半角) 入力。単位: $\mu\text{g}/\text{l}$ 。
・ 分析結果 (検出下限値以上)	検出下限値以上では、分析結果を有効数字 3 桁 (有効数字 4 桁目を四捨五入) で記入。2 回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。
・ 検出下限未満での検出下限の値	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。「検出下限値以上」欄は記入しない。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
・ 標準偏差	3 回以上の測定を行った場合には、標準偏差を算出し有効数字 3 桁で記入。標準偏差の算出方法はガス試料 (臭気指数) と同じ。
・ 測定回数	分析用試料の量り取りから GC/MS 等の測定までの一連の操作を行った回数 (併行測定の回数) を記入。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。
分析条件	(2 回以上測定した場合には、1 回目の分析条件を記入する)
< 測定用試料液の調製 > 試料量	数値 (半角) 入力。単位: ml 。
溶媒抽出 塩化ナトリウムの添加量 溶媒の種類	数値 (半角) 入力。単位: g 。添加しない場合は「0」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
1 回当たりの溶媒の使用量	数値 (半角) 入力。単位: ml 。
1 回当たりの抽出時間	数値 (半角) 入力。単位: 分。
抽出回数	数値 (半角) 入力。単位: 回。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。 「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

濃縮の方法 0-列-IPポレーター 窒素吹き付け その他の方法	実施した場合には、チェックボックスにチェック。 実施した場合には、チェックボックスにチェック。 その他の方法を実施した場合には、全角文字で具体的に記入。
定容量（測定用試料液量）	数値（半角）入力。単位：ml。
<GC/MS> GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（ ） 温度保持（分） 昇温速度（ /分） 昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリアーガス条件 種類 流量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：ml/分。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。GCへの注入量(μl)を記入。 数値（半角）入力。単位：。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定用質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数1つを記入。
<HPLC> 機器 メーカー 型式 検出法	全角文字で具体的に記入。 全角文字で具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム メーカー 型式 内径 長さ	全角文字で具体的に記入。 全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。

移動相	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
流量	数値(半角)入力。単位：ml/分。
注入量	数値(半角)入力。HPLCへの注入量(μ l)を記入。
波長	蛍光検出器を使用した場合、項目ごとに記入。 励起波長(nm) 測定波長(nm)を数値(半角)入力。
<標準原液> 区分 購入：メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
<検出下限> 検出下限	数値(半角)入力。試料中の濃度(μ g/l)として記入。
<検量線の作成等> 定量方法 方法 内標準物質の種類 内標準物質の添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値(半角)入力。GC/MS又はHPLC測定用試料液中の量(ng)で記入。
サロゲートの使用 有無 サロゲート：種類 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値(半角)入力。試料中への添加量(ng)として記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 最高濃度の指示値	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。GC又はHPLCへの注入量(nl)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位：最小量と同じ。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
空試験 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」、「、」、「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する。廃棄物試料(カドミウム)と同様。
計算式	全角文字入力。「。」、「、」、「数字」、「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。廃棄物試料(カドミウム)と同様。